

経済建設委員会会議録

平成25年12月3日 10時00分 開会
11時23分 閉会

網走市議会

午前10時00分 開会

○佐々木委員長

おはようございます。

ただいまより経済建設委員会を開催いたします。

本日の委員会は、理事者側議件3件と行政視察の取りまとめについてを行います。

では1件目、平成25年度除雪計画についての説明を求めます。

○高橋土木管理課長

平成25年度の網走市除雪計画について御説明をいたします。

資料1号をごらん願います。

本年度の除雪計画の策定に当たりまして、資料の4ページから6ページに添付しております除雪基準及び出動基準をもとに、過去の実績等をふまえ検討し、郊外地区につきましては地域の道路河川愛護会と協議を行いまして、本計画を策定いたしました。

市民生活の安定維持と産業振興に寄与することを目的に、通勤通学路の確保、主要幹線道路及び歩道の早期除雪に努めてまいります。

3ページ、除雪計画資料には除雪内容の一覧を7ページ以降には緊急連絡体制及び除雪路線図を添付しておりますので、ごらんいただきたいと思ひます。

1ページの3、除雪路線以下につきましては3ページの除雪計画資料で御説明をしたいと思ひます。

3ページをごらんください。

市道につきましては、認定市道697路線、延長615.5キロメートルのうち、651路線、延長420.2キロメートルの除雪を実施いたします。

次に、市道以外の道路につきましては市街地、郊外地域合わせて168路線、37.42キロメートルの除雪を行います。

歩道、階段につきましては市街地、郊外地域合わせて98路線、71.72キロメートルの除雪を行います。

また、除排雪車両体制でございますが、表の下

段7に記載してありますとおり市保有車両19台と、民間事業者の借り上げ車両49台及び委託車両15台の合計83台体制で対応します。

借り上げ車両の事業者は昨年同様11事業者となっております。

次に雪捨場につきましては、市内に大曲、潮見の2カ所を確保し、ブルドーザー2台で雪捨場の整備を行います。

また、除雪作業終了後は滑りどめ対策としまして、融雪剤散布、ビリ砂利散布を行うとともに、30路線35カ所に砂箱を設置いたします。

このほか、例年実施しております市役所玄関前におけるの市民向け砂袋の無料配布につきましても、昨年同様2万7,000袋を用意いたします。

ロードヒーティングの布設状況につきましては市内27路線54カ所、延長5.4キロメートル、面積2万688平米となっております。

次に、除排雪に関する市民への啓発でございますが、市のホームページに除雪作業の動画等を掲載しておりますが、12月と1月の市広報紙への掲載や除排雪への協力をお願いするチラシを作成いたしまして、既に全戸配布を行っており、路上駐車防止、車道への雪出し防止、玄関前の間口の除雪の協力等を呼びかけることとしております。

チラシの内容は14、15ページに添付してございます。

以上が平成25年度除雪計画でございますが、本年度も市民の御理解と御協力をいただきながら、適切な除排雪を実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○佐々木委員長

皆さんから質疑ございますか。

○古都委員

今お話の中で排雪、大曲と潮見2箇所とあったのですけれども、去年足りなかったと存じているのですけれども、それと比べてスペースの確保というのはどれぐらいできているのかお伺いします。

○高橋土木管理課長

ただいま委員御指摘のとおり、昨冬の部分については両捨場とも満杯状態になりまして、その後は新たな用地の確保等も検討をいろいろしてきたところなのですが、今現在はなかなか新たな土地を確保するということが非常に難しい状況にあると。

現有大曲と潮見の2カ所においてより効率的な利用方法はないかということを検討いたしまして、大曲の雪捨場においてはとりわけ奥のほうは官有無番地といいますか、法務省所管の地番のついていない土地もございます。その手前側を国、北海道そして網走市の三者の雪捨場として利用しているのですが、奥側につきましては、水路の切りかえ等行えばもっと効率的に雪を堆積できるスペースがございます、その部分については国、北海道において水路の切りかえを行って対応いただくよう、早くから要望しているところがございます、この部分については予算関係も、国、北海道においてあるかと思いますが、この部分については同じ面積でも効率的な捨場ということで利用をお願いしているところですので、この冬すぐに改善ができるかという部分はちょっと疑問はありますけれども、今後は同じ捨場の2カ所の部分でも、より効率的な雪の堆積ができるのではないかと考えておるところです。

○佐々木委員長

そのほかございますか。

○山田(庫)委員

除雪の計画が提示されたわけですが、これはどの程度の雪が降るかまったくこれはわからないことですが、毎年御努力いただいていることに心から敬意をまず申し上げたいというふうに思います。

それで、今いろいろ説明いただきました。

毎回出てることだと思うのですが、国道、道道、市道との関連の協議会はきっともう終わったと思うのですが、いつも市民から出るのは、国道、道道、市道それぞれが除雪をしますから、交接部というか接合部ですね。

その辺の除雪がやはり最近きちんとされてるようなのですが、特に市道と幹線道路との接合部も同じなのですが、車が顔を出したときに右左がなかなか高くなると見えないというのが毎年市民から言われる状況があるので、それは土木管理課も十分押さえてると思いますので、100%市民の要望にこたえられるか別にしてその辺のやっぱり、高さを低くするようなこともパトロールの徹底も含めてぜひ対応していただきたいし、国、道、市との交接部といいますか接合部の部分というのは、協議会の中でもきつと議論があったと思うのですが、その辺もお聞かせいただければと思うのですが。

○高橋土木管理課長

つい先日なのですが、委員御指摘のとおり、除雪会議で国、北海道、それから市町村、警察等と会議を行ったところなのですが、議題の中にもそれぞれの所管の道路の交わる交差点付近の関係の除雪についてということで、例年話し合いをしているところなのですが、なかなか会議の部分でこの場所をこうという具体的な話にまでは至りませんでした、総体的な部分で双方、とりわけ除雪作業に当たる方々と連絡を密にしながら、交差点部が山のように雪を積み上げるとやはり事故のもとですので、それを解消するために作業に当たるもの同士が連絡を密にしながら、対応していきましようということ再度確認いたしております。

○山田(庫)委員

今御答弁いただきました御案内のように、国道が先に除雪するのか、時間のずれがあるので、いづれにしても最後そこをやるところがきちんと交差点部分をきれいにして除雪をするということが原点だと思いますので、その辺の徹底をお願いしたいと思います。

それと単純なことなのですが、路線によって、これは借り上げもそうですし委託の方の運転手さんの力量ももちろんあるわけで、初めてというのは必ずあるわけですから、ここは余り批判すべきはありませんが、その道路の面とその雪の厚さ

が路線によってやはりばらばらのとこがかなり見受けられて、ある程度雪解けになるときに非常に厚くなって大変走りにくい状況が生まれていることもあるのですが、除雪をする際にどのぐらいまで、とれという基準はあるのですか。

○高橋土木管理課長

除雪の出動基準等は除雪計画の中に載せているんですが、どの程度までという具体的な基準については、私の知っている限りではそういった基準は定めていないです。

ただ委員御指摘のとおり、余りにも表面だけの除雪でいくと、ちょっと気温が緩むとざくざくになってしまう。逆に余りに下からの除雪につくと他の路線との段差が生じてしまう、余り削りすぎてしまうと。そういった部分もあるので市としては路線差、雪の降り方にもよるのですが、なるべく路線差を発生させないような体制をとってくださいというお願いは、今後についてもしていきたいと思っております。

○山田(庫)委員

なかなか難しいとは僕も思うのです。

道路の構造上、下水道マンホールがあれば余りぎりぎりやって引っかけるとも困ると。

それと今言われたように暖気になって雪解けのときに、どうしてもマンホールは上がらないのだけでも周りの道路が上がってしまつて、マンホールの上というのは解けますから、そういう意味で、路線パトロールも徹底していただいて危ない箇所が出てきたら、随時、直営の部隊も入れながら、いろいろな意味で事故の起こらない事前の対応を含めてお願いをしたいというふうに思います。

以上です。

○佐々木委員長

そのほかございますか。よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○佐々木委員長

では次の議件に移ります。

平成25年度上期観光客入込数及び宿泊施設等利用状況についての説明を求めたいと思います。

○田口観光課長

平成25年度上期観光客入込数及び宿泊施設等利用状況についてですが、資料2号をごらんください。

観光客入り込み数は73万5,300人で対前年同期比5%の増加となり、宿泊者数においては20万7,300人で、前年とほぼ同数値となりました。

ことしのゴールデンウィークは降雪に見舞われるなど天候に恵まれず、その後においても低温が続くなど、春季における道内観光客の動きは非常に鈍い状況となりました。

6月以降においては天候も回復し、オホーツクあばしりツーデーマーチやS Lオホーツク号の運行など各種イベントが好天のもと開催され、道内個人観光客の動きが活発になり、観光客の入込みが増加につながったものと考えております。

一方、道外観光客については、旅行エージェントの団体旅行が低迷したことにより、湖畔地区4ホテルを中心に厳しい状況となりましたが、6月から9月における羽田女満別空港間の航空機材の大型化や、ラグビーや陸上を初めとする各種合宿、さらには公共工事関係者の宿泊増や各種スポーツ大会などが網走市内で開催されたことなどにより、市街地ホテルを中心におおむね好調に推移しました。

外国人観光客の宿泊については、香港、台湾からの観光客の宿泊が好調に推移したのを初め中国からの個人観光客が市街地ホテルを中心に宿泊数をふやしており、宿泊数は9,100人で対前年比13%の増加となりました。

観光施設につきましては、オホーツク流水館及び博物館網走監獄においては、首都圏旅行エージェントのメディア広告商品による利用等が好調であり、さらには台湾、香港及びシンガポールなどの外国人観光客も好調に推移し、オホーツク流水館が8万1,600人で対前年度比3%の増。博物館網走監獄は14万5,800人で2%の増となっております。

以上でございます。

○佐々木委員長

皆さんから質問ございますか。ございませんか。
(「なし」と呼ぶ者あり)

○佐々木委員長

ないようですので、次に移りたいと思います。

3件目、天都山展望台及びオホーツク流氷館の整備事業についての説明を求めます。

○武田観光課参事

天都山展望台及びオホーツク流氷館の整備事業について御説明申し上げます。

11月22日の委員会において御説明させていただきましたが、もう少しイメージが膨らむ資料を提出させていただくこととしておりましたので、本日、新たに補足資料として資料3号を御用意いたしましたので、御説明申し上げます。

それでは資料3号1ページをごらんください。施設の全体構成と空間イメージでございます。左側の図でございますが、地階から屋上階までの空間イメージと導線を示しております。

図の下から地階には、施設の基本コンセプトである景色の美術館の目玉コレクションとして、本物の流氷を展示する流氷幻想ギャラリーを配置し、1階は当館への入り口及びロビーと旅のゲートウェイとしての観光情報ギャラリー、入り口からの一番奥には商品構成レイアウトなど見る楽しさも感じられるミュージアムショップとしてのギャラリーショップを配置しております。

2階ですが、右側には網走湖側やオホーツク海側のパノラマ景観を望むことができるカフェレストランギャラリー、左側には市民や来館者が気軽にパノラマ景観を楽しんだり、イベントにも活用できる多目的ギャラリーを配置しております。

屋上階はこの地域に存在するさまざまなすぐれた景観を一望し、まさに天の都にいる心地を体感できる、風を感じる展望ルーフギャラリーとなっております。

右側は施設のコンセプトである景色の美術館のデザインイメージであります。主に地階から2階は流氷をコンセプトにデザインされ、2階は重なりますけれども、2階から屋上は景色をコンセプトにデザインすることとしております。

これらについてはあくまでイメージでありまして、詳細部につきましては実施設計の中で詰めていくことで考えております。

次に2ページをごらんください。

施設の外観イメージとなります。

本日、模型のほうも御用意させていただいておりますので、ごらん願います。

外観は周辺景観に配慮し奇抜なデザインではなく、かつ開放感と展望を楽しむことができる建物であるということを外から見てイメージできるデザインとしております。

なお、外壁の色は自然公園法との関係もございますので、今後検討してまいります。

続きまして、3ページをごらんください。

ここからは地階の流氷幻想ギャラリーの主な展示ゾーンのイメージについて御説明いたします。

初めに、本物の流氷を展示する流氷の世界体感室のイメージでございますが、流氷そのものを見せるふれるだけではなく、壁面の風景描画や投影、照明、効果音、ほかの装置による演出や太陽光を引き込み幻想的な流氷ブルーも再現いたします。

また、奥行き感を演出するのに効果的である天井、壁を一体とする二次曲面を利用した背景描画を駆使するとともに、ライティングによる日の出から満点の星空までの1日の移ろいを演出し、まさに流氷の風景の1日の移ろいを体感できる演出イメージとなっております。

続きまして4ページをごらんください。

流氷幻想ギャラリーに入りまして、最初に目に入る奇跡の流氷物語のプロジェクションマッピングという技法を使った演出でございますが、流氷をイメージさせるキュービク状、箱形状の造形物を重ねたところに映像を投影し、視覚に訴える仕掛けとする演出イメージでございます。

続きまして5ページをごらんください。

流氷幻想シアターのイメージでございますが、5面マルチスクリーン。これは正面、左右側面、天井面、床面の5面を使った演出となります。

右側の映像演出のイメージのとおり、それぞれ

の面を分割して映像を流したり、5面すべてを一体的に使った映像などにより、流氷の下にいるような感覚やダイナミックな流氷など効果的に神秘、幻想、驚き、感動を映像詩として紹介いたします。

以上が流氷幻想ギャラリーの主な展示ゾーンのイメージとなりますが、本物の流氷と映像、光、音などの演出をうまくマッチングさせることにより、これまでと異なる流氷の世界を体感してもらう満足度の高い施設にしたいというふうに考えております。

以上で、天都山展望台及びオホーツク流氷館整備事業についての補足資料の説明とさせていただきます。

○佐々木委員長

皆さんの質問等ございましたら。

○小澤副委員長

まず確認ですが、前回の流れからを含めてのお話ということで考えてよろしいでしょうか。

○武田観光課参事

そのとおりです。

○小澤副委員長

その中で前回の資料、そしてことし3月に出ました基本構想の部分等を確認しながらちょっと質問を何点かさせていただきたいと思います。

今回出てきたなかで公共スペースというものがありますが、市民利用ということ想定しているのかなというふうに思うのですが、その辺は今回も変わらないというところよろしいでしょうか。

○武田観光課参事

市民利用につきましては変わらず、多目的ホールでのイベントですとか、例えばコンサートですとかというのも含めまして、市民利用を考えているところでございます。

○小澤副委員長

それは変わらないということで、認識をさせていただきました。

管理運営費の関係なのですが、図面のようなものが出てきて面積というものが大方見えてきた

中で、入館料ですとかテナント料で管理運営費を補っていくのだという基本的な部分、こちらについても変わらないというところよろしかったでしょうか。

○武田観光課参事

基本的に基本構想のときと同様、入館料等で賄うということで変わっておりません。

○小澤副委員長

その辺も変わらないということで理解をいたしました。

もともと出てた絵とだいぶ今回形が変わったということで、維持費、経費の関係、前回7,000万円程度年間かかる想定されていたと思うのですが、建物形が変わってその辺の維持管理費、経費の部分について、金額的に今想定している範囲というのはあるのでしょうか。

○武田観光課参事

その部分につきましては、実施設計の中で詳しく検討することになるかと思えますけれども、例えば流氷の展示室であれば、今までは電気料がかかっていたけれども、省電力化もいろいろ進んでおりますので、その辺については省電力化になるということや、そのほか全体の電気料がどのくらいかかるのかということは実施設計の中でやっていかなければならないと考えておりますが、基本的には今のところ想定の中で考えているところでございます。

○小澤副委員長

結構大きな金額ですのでこれからつくり上げていく中で、なるべく経費のかからないような仕組みづくりというものをさせていただきたいというふうに思います。

あと、やはり新しく建てたとしても今後のリニューアルというところも、先に、ある程度考えて取り組みをしていかなければいけないと思うのですが、ソフト面のリニューアルになるのか、ハード面でいえば補修とかそういうところも考えていかなければいけないと思うのですが、ソフト面においては今の規模の大きさで将来例えばリニューアルするとき、面積的には足りるという

ような形で、その辺の検討というのはされているのかというところをお伺いしたいと思います。

○武田観光課参事

基本構想の中でもお示ししておりますが、5年に1度というような形でリニューアルを考えているところがございます。

基本的にはソフト面の、例えば映像ですとかも含めまして、その時代に合ったことも考慮しながら、調整させていただきたいと考えているところがございます。

○小澤副委員長

そういった先々、5年後10年後というものをしっかりと踏まえた中での実施設計に着手していただきたいと思います。

最後に、基本構想の中でターゲットを絞った戦略というところで終わりのところで締めております。

その辺のターゲットをどういう形で持っていくのかということと、飲食施設については充実を図るのだというふうには書いてあるのですが、今回を見るとすると、どちらかというところから力を入れたというよりは、空間というか、その場所の心地よさみたいところを重点的に置いているのではないかなというふうに感じるのですが、その辺の整合性をもし説明できれば説明していただきたいと思います。

○武田観光課参事

ターゲットにつきましては、建てかえにあたりまして多様なターゲット層の取り込みによる安定的な運営を目指す必要があるという考えております。

このための天都山の展望という立地条件を、最大限に活用しながら、多様なターゲットの取り込みを目指しておりますけれども、具体的には団体型、個人型で旅行される女性ですとか、シニア層のカップルの方々など、現在自然景観ですとか学習、流水の不思議ですとか、地球環境ですとか、そういったものに対する意欲が高い知的好奇心が旺盛であるというようなことから、このような方々も集客のターゲットと考えておりまして、ま

ず女性に選ばれるような施設にというようなことを考えているところがございます。

また展示機能の教育的な側面を活用した地元の教育学習ですとか、他地域からの修学旅行の積極的なPRなども図りながら、集客を行っていきたいと考えているところです。

また飲食のレストラン部分についての御質問ですけれども、面積的には減ったということもございますけれども、コンセプト等いろいろ考えて計画をさせていただいているところがございますが、多目的スペースを利用したことも考えておりますので、その辺の部分を経率的に活用しながらレストランの充実等図っていきたいと考えているところがございます。

○小澤副委員長

飲食施設は減っても、大きなイベント等ではフロア全体を使って対応できるという内容ということで、確認させていただきました。

私は以上です。

○佐々木委員長

ほかにございますか。

○古都委員

前回の資料も含めまして何点か質問させていただきます。

前回のショップという部分が1階のところにあるのですけれども、これは現在ではお土産屋みたいところになっているようなところをイメージしてのショップという部分なのかなと。

○武田観光課参事

ショップにつきましては前回もお話しさせていただきましたけれども、見ても楽しい、その商品構成も楽しいというようなギャラリーショップというのをイメージしております、イメージ的にはそのミュージアムショップというようなイメージを持っております。

ですからお土産等についても、そのような商品構成ということで考えているところがございます。

○古都委員

これは民間でやるのか直営でやるのかといっ

たら、多分民間だとは思うのですけれども。

あとは流氷体感室で、ここは現在の流氷館にある体感のところもそうだと思うのですけれども、ほぼここはハードとソフトが一体となって一度つくってしまうとなかなかハード面も一体となっている部分があって、見せ方を工夫するのが難しいところだとは思うのですけれども、現在のこの構想のままいくのか、まだこれからさらに検討していくのかどちらなのでしょう。

○武田観光課参事

詳細の部分につきましては、実施設計の中で考えていくということになるかと思えますけれども、基本的には今の実施設計の方向性、コンセプトを生かしながら整備していきたいと考えているところでございます。

○古都委員

前回のお話なのですけれども、今のこのコンセプト等、ターゲット等を聞いた中で、どの辺に来るお客さんが感動してまたリピーターとなるというふうに考えているかお伺いしたいのですけれども。

○武田観光課参事

景色の美術館という基本コンセプトのもと、本物の流氷と景色ということ新しい施設の基本コンセプトとしているところでございます。

その中で本物の流氷を展示しているところはほかにもございますけれども、例えば1日の移ろい、朝の日の出からけあらしですとか流氷ブルーにかかる流氷など、あとは満天の星空など、1日の移ろいとその流氷展示の部分で体感できるということはここでしか体験できない施設だと考えておりますので、その辺は最大の目玉、売りとなるというふうに考えております。

○古都委員

目玉になるという商品の部分についてはわかるのですけれども、はたしてこちらが売るものと受け手側、売り手と買い手のほうのマッチングがしっかりしていないと、それは相手に対してまた来ようとか感動したからもう一回遊びにこようねというふうにはつながらないと思うのですよ

ね。

そもそも流氷館というのは、発足自体が網走の夏だけに集中した観光を冬にもどうやって呼ぼうか冬の魅力を発信しようというところが発祥だったとは思うのですけれども、その観点から考えても、ただ一日の移ろいではなくて、もう少し何か僕はインパクトを与えることが大切ではないかなとは思っています。

その中でハード面もやはり一体としている部分があるので、もう少しこの構想自体は練る必要があるのではないかと感じます。

以上です。

○佐々木委員長

そのほか質問ございますか。

○栗田委員

建物が前回のときもちょっと構想を見て、モデルを見てると通常今まで考えられたそのタワーという部分がなくなったということで、私がかねてから要望していたその高さという部分ではなかなかこれ言いづらくなったのかなという気がします。

なかなか発想を変えられると、高さだけではない部分もあるのかなというふうに感じるわけですが、いよいよ現実的に実施設計ということですから、建てるということを決断しながら進めていかななくてはいけないという状況に入っていくわけですが、何点か答弁の中にもございましたが、この施設、やはりいろいろな意味で市民負担が発生するわけですから、当然市民の利用というものができる限り利用しやすい環境をつくってあげて、なおかつ市民との財産としての活用する方法もあるということは、委員会の中でも常日ごろ何回もお願いをしていた話ですし、流氷を教育の場として考えながら修学旅行誘致も、地元の子どもたちにもそういう場の提供というのを当然考えられてると思いますけれども、それを再度、これから実施設計の大事な部分ですから、その部分についての見解をまず聞きたいと思います。

○武田観光課参事

今委員のほうより御指摘のありました市民利

用の観点についてでございますけれども、今現在、委員から御意見のありましたとおり、市民利用については大切な部分だということで認識しております。

地元の小学生の学習の場ですとか、先ほど申し上げましたけれども、多目的ホールによる市民の活用ですとか、たとえば親戚等が来られたときにも気軽にここはいい施設ですよというような形で、来ていただけるようなことをこれからその実施設計の中でも最後まで詰めていきながら検討していきたいと考えております。

○栗田委員

ぜひともそれをきちっと構想の中に再度練りこみながらやっていかないと、基本的には観光だけの設備というそれがどうしても全面に出やすいのですけれども、それだけではなかなか難しいのかなど。市民の全体の理解を得るという面で。

これも何度もお願いをしたり、いろいろ構想の中に入れられないかという話で、今その模型を見る範囲でいろいろ表のオープンエアーの部分で、例えばイベントコンサートだとかいろいろなことに使える可能性も多分あるのだろうと、駐車場等を利用した中で、そういうことをきっちりと考えながら、せっかくですからつくった以上市民が大いに活用できる場で、天都山がそういう発信というか、市民としての誇りの場であってしかるべき施設になればより有効であろうし、価値も出てくるのかなという気がするので、その辺は再度コンセプトの中に盛り込む、実施設計ですから今度いよいよ大事な部分に入ってくるのでお願いをしたいなと思います。

もう1点ですね、もし天都山にこの設備がないとするならば、当市において非常に観光という部分ではマイナスなのですね。なかったと皆さん想定したときに、ではどこに連れていくんだと言ったときにほかのエリアもありますけれども、今ある施設ですら非常に大切な部分であるだろうと。

隣の北見市なんかは合併したことによってもそういう設備というのはほとんどないに等しいのですね。

だから観光で当市を訪れた方、来訪された方に対して、案内できる場所という部分で当市としてはやはり非常に重要な部分ではないかなという気がします。

そういうこともコンセプトの中でしっかり盛り込みながらいよいよ始まるわけですから、お願いをしたいなというふうに思います。

それで一つですね、この施設ができてその滞在時間というのも問題になろうかと思うのですけれども、今までの観光の流れを見てますと、特に観光大型バス関係ですと、この設備には寄ってくださるのですが、網走を通過してしまい違う地域の宿泊施設のほうに行ってしまうという本末転倒なことが実際起こってるのですね。

その部分に対しての対策は、何かお考えかという部分をお伺いしたいと思います。

○武田観光課参事

リピーターですとか滞在時間の増、確保という御指摘だと思いますけれども、それにつきましては1階に観光情報提供ギャラリーという部分も設けることとしております。

その中で天都山を先ほども申しましたけれども旅のプロローグ、エピローグの場というような形の拠点というか、そういう形にしていくと。そのほかに情報として、きょうならこのイベントがあるですとか、きょうは花が一番いいときだというようなそのリアルタイムな旬な情報等も流していきながら満足を高めると。

また例えば朝来たならばまた夕方にはこんなイベントがある、1日の中での情報提供して朝来たけれどもまた夜も来てみよう、そのほかに今回は夏来たけれども次には冬に来てみようというような形で、それぞれの日々、季節の裏の情報、基本的な情報の提供を行いながら滞在時間の確保ですとかリピーターの確保を図っていきたいと考えております。

○栗田委員

リピーター云々という話は出てましたけれども、要はその網走に滞在して泊まってもらうということがやはり最大の目的なのですね。

ここで通過してこの施設を使ってもらうだけでは、やはり網走市としては足りない部分があるので、そういう部分をしっかり練り込んでいかないと。発信もしなくてはいけないでしょうし、できるならば滞在時間をなるべく多く取ったほうが逃げづらいといったらちょっと変な言い方ですけども、ほかの地域までの交通のアクセスの時間がありますので、それも含めた中でやはり地元泊まってもらって、ある程度のお金を落とさせていただくことがやっぱり最大の当市としての目的になりますので、それをしっかりもう一度練り直していただきたいのと、もう1点どうも気になるのが、カフェレストランというイメージが現状今も営業してるのですけれども非常に営業状態は厳しいのだと思うのですね、それが建てかえ効果によってレストランの部分が爆発的に市民利用もいろいろな観光の方も利用していただける形になるのかなというのが、ちょっと施設の形態からして食事という部分はちょっと僕は厳しいのではないかと思うのですが、その辺に関しての見解を聞かせていただきたいと思います。

○武田観光課参事

カフェレストランの部分についての御質問ですけれども、2階の部分にレストランを設置しております。

そこの前の部分がテラスというのも設置しております、そこからの景観、網走湖側、オホーツク海側のテラスからテラス、その硝子から見えるパノラマ空間というのも一つの売りになっているところがございます。

そこでゆっくりとコーヒー等を飲みながら、癒しの時間と言ったら変ですけども、そのような時間を過ごしていただくということも考えておりますので、その辺を含めて、いろいろな形で利用がされていくというようなことをそれも含めまして、検討していきたいと考えております。

○栗田委員

そのおしゃれなイメージでそれは大変結構なことなのですが、コーヒー一杯を売って商売が成り立つかといったら、なかなかこの場所では難し

いということを私は言いたいので、例えば最初から無理なコンセプトでレストランとカフェをぶち込んでも、最終的にやる業者が採算が合わなくなってきた撤退してしまうというような状況が出るのであれば、むしろ最初から自動販売機で対応するとかいろいろなことが考えられると思うのですね。

だから無理してそこで採算性合わないもので、なかなかこの場所で私は食事をしたり、ゆっくりコーヒーを飲みながらその景色を見るという環境にはなかなかないのかなという気がするのですけれども、その辺もやはりしっかりと現実を見据えた上で、現状も非常に厳しい状態だと思います。やってるのは不思議なぐらいです。

だからそういう業者の声も聞きながらしっかりと、どういう人がどういう形でできるのか。

食事という部分になりますとなおのことそのいろいろな競合する部分も出てきますし、この部分だけがしっかりと経営面でできるかといったら僕はちょっとこの場所では難しいのかなという気もしますし。

○大澤副市長

すみません。

話の最中に手をあげてしまいました。

このレストランといいますか、この部分につきましては非常に悩んだ部分です。

既存の施設のレストランは、結構厨房含めて大きな面積で人数も大きく入ると。

当時建てたときにはそういった観光客の背景、動向がありまして、それで成り立ってたというふうに思いますけれども、今回、建てかえに当たりましては、やはり大きな規模だとか大きな仕様にしてしまうのは、リスクが高いということがあります。

一方、そのインバウンドなどの部分がまだ流氷館のところで食事をとるというニーズが結構ありますので、その対応も考えなければならないということと、そればかり頼っているのもこの先はちょっとこれまた足りない部分もあるのかなというふうに思ってます、やはり個人客にも満足

をしてもらえるような内容にもしなければなら
ない。

一方ではインバウンドを中心とした団体客に
も対応させる必要があるといったところで、どの
ぐらいの規模、それから内容にしたらいいのかな
というところでは、非常にコンサル含めて内部で
いろいろと協議検討した中で、実はもっと大きな
形だったのですが、ここまで縮小したというよう
なことが現実としてありました。

委員おっしゃるとおり、商売として入るテナン
トを募集する予定でありますけれども、入られる
方のいろいろな戦略も出てくると思いますけれ
ども、そういった具体化という中でこの建物自体
のコンセプトに合った形で御商売をしていただ
いて、双方がよりよい形になることを望んでい
るわけでありまして、その辺はしっかりこれ
から入る方と協議をしながら、両方満足してい
ただけるような体制にしていきたいと思ってお
ります。

○栗田委員

よくその辺は理解をしてるつもりで、なおお願
いをしたいということだと思います。

やはり今入っているものが休んだ時期もあり
ました。

ただ非常に設備としては寂しい限りなのです
ね。

だから小さくすることによって、ある程度コス
トの面ではかなり圧縮はできると思うのですけ
れども、何分にも経営をできるような状況を考え
てあげないとそれは難しいのかなと。

赤字が続いているものに対してずっと継続す
るということは民間ですから無理なので、それも
含めた中でしっかりと考えてやってほしい。

せっかく募集してそこに業者が入るわけです
から、成功してほしいなという強い思いがあるの
ですね。

そこで十分商売として成り立つような環境を
つくるのも一つの設備をつくる意味であるのか
ないというふうに考えますので、これはギャラリー
ショップのほうにも多分同じようなことが言える

と思います。

全部お任せであの場所貸してるから好きにや
ってくださいということではなくて、いろいろ練
った中で、協議会も含めて練った中で考えていく
ということが非常に大事なのかな。

そうすることによって、ともによくなるという
ことにしていかないと、丸投げして預けてしまっ
たからそれで終わりという形にはならないのか
なという気がしますので、その辺は十分に協議を
詰めていただきたい。

現場の声というのがやはり生きた声ですから、
それをしっかりやっていただきたいなというふう
に要望して、私のほうから質問終わります。

○佐々木委員長

そのほかございますか。

○山田(庫)委員

何点か前回もいろいろお聞きしてますから、そ
れで何人かの委員から出たように、これから実施
設計に入って実際建てる形になっていくわけで、
前から経済建設委員会の中でもいろいろ議論は
あった。やはり現状の施設とそんなに中身が変わ
らないのだったら修繕だけでいいのではないかと、
極端な議論も経過の中にあったと思いますが、
今回いろいろな形で新しくイメージも含めて説明
いただいたので、私は期待も含めてしてませ
けれども、あまり言葉とイメージが先走ってしまっ
てそれぞれがイメージ膨らまして実際にきたとき
にギャップが出たり、すばらしいとかいろいろな
方が出るとは思うのですけれども、それはそれと
してやはり当初の計画でいくとまず有料の方500
円という仮定でありますけれども、20万人という
ことで想定しながら、いろいろリニューアルは10
年か15年かでいつやるかは別にして、先ほどは5
年という話もありましたけれども、やはり施設の
中身が飽きてくればまたリニューアルして新た
な客をまた来てもらうということも考えていか
なければならないというふうに思いますのでね。

皆さんから出てたようにやっぱり下には道の
駅があり、天都山のエリアに北方民族博物館、そ
れから監獄博物館もありますし、いろいろな施設

があってお互いがやっぱり分散して帰らないように相乗効果を生むということもきちんと頭の中に入れておられると思いますけれども、その辺のイメージと、夏場来て流氷館ですからやっぱり流氷を知っていただく、流氷にも体験をしていただく、そしてシアターでこういうものだということを見ていただいて、今後はおーろらに冬来て乗ってみようかというイメージを膨らませていただくということも非常につながっていくのだと思うのであまりイメージイメージと言葉で先走るようなちょっと心配があるので、ここはしっかり実施設計の中でもんでいただいて、これもきょういただいたイメージもすごくすばらしいというふうに期待をしていたのです。

大変だと思いますけれども期待にこたえられるようやっていたきたいのと、それと当初20万人というその有料の人数なのですが、地下に有料の施設があるということで聞いていますので、いかに下に行ってみてみたいかということをやほり思わせる。

それで図面いただいたときに、入るところに流氷の絵があるのですが、あれ下になるのか上になるのか別にして、流氷の下をくぐっていくような形で入るようなイメージをしているのか、いろいろあるのですが、やっぱりここに入って見てみたいというイメージを膨らますように人の動向、流れをうまくきちんと考えていただきたいなとこんなふうにひとつ思います。

それと細かいことですけど、映す流氷ギャラリーありましたよね、これ動かせるのではなく固定してしまうのでしょうか。四角いプロジェクションマッピングというのですか、これは固定してしまうのでしょうか。これをこう動かしたり、今度角度変えようとかそういうことではなくて、がちっと固定しちゃって今度はリニューアルするときに何か形を変えるとかしていくのかなんだけれども。

細かいことなのだけれども、ちょっとイメージがわかなくて。

○武田観光課参事

プロジェクションマッピングのことかと思いますが、プロジェクションマッピングにつきましては四角い箱状のやつを重ねるということでそれは固定です。

ただし映像をいろいろな形で4パターンぐらいを流していくというようなことで視覚に訴えていくというような形で考えております。

○山田(庫)委員

わかりました。

そうしたらそれが固定はしてあって、映すものを変えていこうと、変えるというか回しながらやっていくのかもしれませんが、イメージわきました。

細かいことを質問させていただいたのですが、ぜひ大体でき上がってくる中で、今度設定によって細かいことも含めてまた精査されると思いますので、ぜひ展望というか最上階もこれを見ますと最初エレベーターが上がるので、向こう側が見えなくなるかと心配したのですが、こっち側が大分スペースまだありますから。

もちろん大曲湖畔園地や素敵な湖側も見えるわけですから、心配ないなというふうに思いましたので、ぜひ実施設計の中でいろいろ要望を含めて出ましたから、できる限り対応していただきたいとこんなことをお願いして質問を終わります。

○佐々木委員長

そのほかございますか。

○工藤委員

ここまで煮詰まってきたところで言う言葉かどうかわかりませんが、この建物の最終的な責任者というのはどこにあるのか。

経営的なものも含めて。

○大澤副市長

網走市です。

○工藤委員

今レストランの人間がどうのこうのとか、いろいろ展示がどうのこうのといろいろございます。

しかし、いずれにしてもレストラン部門にしても、販売部門にしても、流氷館展示等々に関しても現場の意向がまず第一だと思うのですよ。

ですからレストランにしても管理者制度という言葉があるので、非常にその辺質問する側も言葉に窮するところあるのですが、現場が自分らの特色を出せるようなレストランであり、展示でありにしなかったらならないのですが、その辺があまりにも市がこういうふうなレストランですというイメージを膨らませて渡すとしたら、私はこういう和の食をメインにしたレストランとか、洋を主としたレストランとか、それがここで固まってしまうと思うのです。あまり固めてしまうと。

ですから、ある程度自由な中で現場とやりとりしてほしいなと思うのですが、指定管理者制度ということであれば誰が応募するかわからない中でちょっと言い方間違ふとどうなのかなって、質問する側も非常に大変だと思うのですけどね。

ある程度自由裁量で、その中で参加できるレストランとかその中で管理運営できる指定管理者を募集する、ある程度は言葉に窮しますけど。その辺あまり固定するのではないという言い方。

○大澤副市長

答弁にも窮しますが、今の段階で現場とその打ち合わせと言ってる意味がちょっとわかりませんが、いずれにしても網走市がこれを設置して、そして一つのコンセプトをつくって、建物全体のコンセプトをつくってるわけですから、レストランにしてもショップにしても、そのコンセプトに合った事業者に応募をしてもらいたいと。

これを公募しようというふうに考えてますので。

ですからそのところで、今の段階でどの人というわけにはいきません。

ただ、既存の施設にはレストランは別ですが、長年事業を行っているお土産屋さん等がありますから、これからしっかりいろいろと協議をしていかなければならないというふうに考えていますけれども、施設全体、それから展示のほうにつきましては、実際に流氷館を運営している

振興公社の職員等々からいろいろ話を聞き、また観光業界からもいろいろな御意見をいただきながら、コンサルと相談しながら一つの今回提示してるようなイメージをつくり上げてきたということです。

今委員のおっしゃってる実際にそこに入られる方の意向みたいなものが本来早くわかって、それに合った形でレストランの形だとか、ショップの形ということのほうがいいと思いますよ、そういうことが必要だということは十分わかるわけですが、今の仕切りでいくとそれを先に決めてしまうことにはいきませんので、私どもの考えといたしましては建物全体のコンセプトはこうですとその中で確保した面積が決まっているわけですから、そういった中でそのコンセプトに合った形で事業展開を図っていただきたいということを、公募の段階でそのところはしっかりとアピールして、そのことに賛同していただけるといいと思いますよ、そういった方の応募を期待するところになるかと思います。

○佐々木委員長

よろしいですか。そのほか何か質問等ございませうでしょうか。よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○佐々木委員長

では、この案件については以上で終わらせていただきます。

ここで暫時休憩いたします。

午前 10 時 59 分休憩

午前 11 時 09 分再開

○佐々木委員長

委員会を再開いたします。

次の案件は、行政視察の取りまとめについてでございます。

9月13日開催の委員会で、レポートを作成し取りまとめることで決定をしております。

皆さんには先月末に提出いただいております。

各委員よりその中から一言報告を願った上で、調査書を添付の上、議長への調査結果の報告にしたいと思っておりますので、お一人ずつ発言をお

願いたします。

栗田委員からどうぞ。

○栗田委員

行政視察ですが、3カ所に行ってまいりました。

柳谷、それぞれ報告書のほうに詳しく書いてありますが、先進的、柳谷はすごくちっちゃなミニマムな集落の一つの成功事例だったのですけれども、ほかの2市については、非常にスケールの大きな事業でした。

それが僕はどっちかというところのほうで非常にこれからの将来の可能性という部分では、非常に興味がありましたし、身になったような気がします。

特に鹿児島県の観光農園については、合併特例債の利用事業ではあるのですが、この観光農業公園というのは非常に難しいなということは改めて実感したのと、今後市民を巻き込みながら観光というものと両抱えで進んでいかななくてはいけないのかなという気がしました。

当市は面積的にはもっと大きな農園をもっているわけですが、それにどういうコンセプトでどういうふうにやっていくというのは非常に簡単にはいかないなというのが現実にこの大きな事業を実際やっている鹿児島の指宿に近い地域でしたけれども、見させていただいて非常に大変だなと。

正直言ってランニングコストも非常に多くかかるみたいで、その部分をどうやってやっていくのかという部分も今後の課題として、その辺も踏まえて非常に参考になった部分ですし、これは今後いろいろな一般質問等を通してながらも、理事者部局とも一緒に詰めていきたいなという部分があります。

以上です。

○佐々木委員長

古都委員どうぞ。

○古都委員

視察市自体は同じところなので、柳谷を見学しました。

その柳谷で感じたのは地域性ということなん

ですけれども、町内会という単位でとらえることなく、今いろいろな都市でもある高齢化の問題をちょっと考えると、高齢者の知識と子どもたちという創造性を利用した上で、6次産業の加工ができれば面白い事業としていけるのではないかなと、当市で比べるとみんぐるなどの活用を考えれば、何か参考にできる部分はないかなということを感じてきました。

鹿児島市の農業公園の視察では、やはり8割が市民の利用ということで、なかなか観光という部分に結びついていないのが現状であり、当市でも大曲湖畔園地ということで観光の利用もうたっていますけれどもなかなかそれも難しいのかなと。

その中で自由時間を利用して市内の循環バスを乗ったりとかという利用もしたのですが、そこでもいろいろな工夫されていて、それが観光の部分での循環バスという部分もあったのですが、市民の利用にもつながる部分も工夫したり、なかなか参考にできる部分でもあるのかなと思いました。

あとは北九州市のスマートコミュニティ創造事業ということで、向こうは水素というのを次世代のエネルギーとして利用して先進的に取り組んで、世界の三本指に入るぐらいの取り組みをされていましたが、全く同じものをしようという部分で考えたらずっと網走は厳しい部分があるのですが、メタンハイドレートという部分を次世代エネルギーと考えた上で利用を考えていくのであれば、ある意味一つの参考にはなるのではないかと感じてきました。

以上です。

○佐々木委員長

山田委員どうぞ。

○山田(庫)委員

すでに報告書として上げさせていただいているので、簡単に感想を含めて述べさせていただきますが、柳谷については今二人の委員から出たように、地域の取り組みとしてはすばらしい先進的なことを取り組んでいますし、これがまちづくり

の原点かというふうに言えると思うのです。

ただ私も質問させてもらったのは豊重さんという方がやっているのですが、後継者が本当にいなくなったら断ち切れないのかということで、後継者がいるというふうに話してましたけれども、その辺僕らが心配することではないとは思いますが、これからも継続してどこまで本当にやっていけるのかなという部分はちょっと心配な部分ありましたけども、やはり小さなエリアからまちづくり、そして国づくりになるのだというプライドを持ちながらやっていることに非常に感銘も受けましたし、何かまちづくりの視点に組み入れることがあればと、こんなことで勉強させていただきました。

それと鹿児島県の観光農業公園については、大曲湖畔園地の約半分の面積ですが、観光も視野に入れて1年しかまだたってませんが、これからは交通アクセスをどうするかという大きな問題もあるようですけれども、利用はまた延びていく可能性はきっとあるだろうと思いますが、私もあの大曲湖畔園地と重ねてみて、あれをどういうふうにご利用したらいいかということで勉強してきたつもりですけれども、本当にどこにどういうふうに生かしていくか、また精査、整理していきたいなというふうに思っています。

それと最後の北九州のスマートコミュニティ。栗田委員、古都委員からもあったように先進的に実証実験も含めてやられてる地区なので、すばらしいなこれがこうなったらという夢も含めていただいたのですが、これを今網走市にあてはめてどうだということにはならないのですが、先ほどもちょっと委員のほうと話していましたが、将来はやっぱりああいう町という、それから家庭の管理、高齢者もいろいろな地域の管理というものもああいうふうになっていくのだろうというふうにはたしかに僕も思っていますので、そういう意味ではいい先進的な事例見せていただいたので、何かやはり、地域的に北海道的にも含めて何かやれるものがあればなど。

こんなふうにとちょっと思いましたけれども、取

り組みが大き過ぎるということは一つありましたけども、大きな夢はいただいてきました。

以上です。

○工藤委員

皆さんの報告と類似になるかと思いますが柳谷にあっては2度目の訪問させていただいたのですが、地域性とか規模からいって、あのまちであの手法が非常にあったやり方なのだろうなど。しかし網走はということ非常に一つ一つがすべてノーになるようなものばかりだったな。真似もできないし、やっていけない。

否定ばかりになるのですけれども、否定ばかりしていないで網走で類似でできるものがないかという考えをやっぱり引き起こしていかなければならないなと感じてきました。

それから鹿児島県のグリーンツーリズム、あれは合併特例債等を入れての地域融和のためにやったのかなという気がします。

網走にとって何かの参考になるということは、10年先に行ってみてから考える、そんなような状況かなと。

それから北九州市の小倉北区の視察につきましては、一つ一つしか見れないな。あれ全体では網走について参考の部類ではなく、ハイブリットカーにしても何にしても非常に進展が早く、今そういった状況になっている。

車でも電気自動車がどうか、電気自動車はちょっと難しいかもしれないけれども、水素自動車なんかというのも本当に5年、10年先、そこら辺を走っているような状況もありうるのかなと思って見てきました。

非常に環境とか、温暖化とか、原子力の問題、非常に多くありますがあそこが先進的にそれらを解決する研究機関の一つにもなっていくのかなというそんな気をして視察させていただきました。

そのほかの細かい面に関しては、書類添付させてもらって報告書にかえたいと思っています。

○小澤副委員長

3カ所ということでまず柳谷の住民共同によ

る経済活動についてでございますが、目のつけどころといたしましては、休んでいる人、遊休農地、空き家などの休んでいる、空いているものを活用することというところと、子どもの出番をつくるということで、親であったりおじいちゃん、おばあちゃんたちを巻き込むことが大切だという視点は大変重要なものであると考え、当市でも自主的な取り組みを進める上で大切な視点であるというふうに感じました。

今後の課題として、中心として地域づくりを進めるリーダーが必要であるというところと、次代を担う後継者づくりが急務であるということで改めて感じさせていただきました。

続きまして観光農業公園整備事業についてですが、極めて参考になる事業ということでございましたが、当市の大曲湖畔園地の活用、政策の展開を研究する中で、今後さまざまな問題解決に向けたグリーンファームというものは、農業、観光、環境のすべてを有機的に連携させた先進的事例として当市の施策の足がかりとしても大いに参考となるところでありました。

最後に北九州スマートコミュニティ創造事業でございますが、こちらのほうは地域や個々の住宅など、エネルギーの使用量の見える化を行っておりまして、日々の生活や事業活動の中で、省エネ活動などが普通に取り込まれる地域コミュニティシステムを構築しているというところが特徴的でございます。

この取り組みは幅広く社会全体を見据えており、他の自治体、地方自治体では見ることでできないような最先端の実証実験が行われており、今後考えていかななくてはならない地域住民によるエネルギーの使い方を学ぶよい事業でございました。

これはエネルギーを通じた地域コミュニティによるまちづくりであるというふうに考え、大いに参考とするべきものであったというふうに感じております。

詳細につきましては、報告書のほうに記載しておりますのでこれをもって報告とさせていただきます。

きます。

○佐々木委員長

ありがとうございます。

先ほども申し上げましたように各委員からのレポートと調査概要を添付のうえ、議長へ調査結果を報告いたしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

理事者側からそのほか案件ございますか。

(「ありません」の声あり)

○佐々木委員長

委員の皆さんから何かございますか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

では、以上で経済建設委員会を終了いたします。

午前11時23分 閉会